

# まちづくりと障がい者



フィナーレ2010

どんなまちが障がい児者にとってやさしいまちなのか、ごくごく簡単に言うと、町内や小学校区・中学校区の町民運動会に車いすの人、目の見えない人、目も見えず耳も聞こえず体も不自由な人、認知やコミュニケーションに障がいのある人が普通に競技や役員に参加している状態です。まちの様子から見ると、バリアフリーであることの他に見守りや即ヘルプができる人が多くいる状態です。こういう状態になるために必要なことは、知ることと知り合うことです。障がいの事と障がいがあることでどういう生き辛さ、生活し辛さがあるのかを知り、どういう手伝いや環境の改善をすればいいかを知ること。そして障がいのある人と障がいのことをよく知らない人が知

り合って、やさしいまちづくりのために話し合い一緒に活動することだと思います。来週、10月10日(月)正午から松山市大街道商店街で「MMF(松山モードフェス2011)」が開催されます。このイベントは松山の若者たちが手弁当で開催するファッションショーです。ショッパの人たちと素人(と言うと語弊があるかもしれませんが)有志モデルが作り上げる松山では屈指のイベントです。今年はこちらに車いすで生活している人など障がい児者が有志モデルとして出演します。昨年も10月10日に第一回CFFS(チエアウォーカーズファッションショー)を同じところで開催しました。車いすで生活している人がモデルとなりました。たぶん日本では初めてかもしれません。介護しやすいとか障がい者でも着脱しやすいとかいう「服」の紹介ではありません。ファッションショーでした。

事の始まりは、一人の男性が障がいを負い、そのリハビリや各種訓練を都会で受け生活した後、松山に居を構え生活する中で、「松山はそこそ大きい街なのに障がい者が街に居ない。出てきていない。なぜなん



特定非営利活動法人  
ネセサリーフォー  
理事長  
**田所 浩厚**  
(松山市)



ショー風景2010

だるう?という素朴な疑問を抱いたことでした。彼はなにか障がい者が街に出てくるきっかけができないものかと考えました。そのきっかけは多面的に考えられました。一つは障がい者自身がもっと積極的に活動しようという気持ちになるきっかけ。一つは障がい者を支援する職員さんなどが街で遊んだりすることを障がい者に勧める気持ちになるきっかけ。もう一つは街の側が障がい者にもっと街に出てきて楽しめるようしようという気持ちになるきっかけ。それらを叶える方法として、ファッションショーを大街道商店街の中で開催する一歩一歩に見てもらうため、モデルは主として障がい者施設へ入所しているもしくは在宅生活を

している重い障がい者―外出の機会が少ないであろう人に職員も含め外出しても

# 障がい者にやさしいまちづくり

ショー風景2010



らうー、ショーに着的服は街のショップで買い、買うときはモデルがショップへ行ってどんなイメージの服にしたいか店員と話し合うー、店員と仲良くなることでまた街へ行く目的ができるー、というルールで行うことにしました。

初めは彼が実行委員長としてCFS独自のスタッフで開催準備をしていきましたが、彼が体調を崩し開催が危ぶまれ次年度に持ち越そうという案も出ましたが、MMF実行委員のみなさんがCFSを応援してくれ、縁の下の力持ちとなって全面的に支援してくれた結果、盛大にCFSを開催することができました。

昨年のCFSで得た「たからもの」はたくさんあります。

施設で普通に暮らしていた人がモデルとなつてしかも何千人もの観客に見てもらえたことやこれまで一度も着ることのなかったおしゃれな最先端の服を手に入れたこと、はじめてメイクをした人もいる、大きなことを成し遂げた充実感、見ず知らずの健常者が自分のためにこんなに盛り上げて

が表わされました。「CFSとMMFが別なのおかしい」の一言です。

「次回はMMFのなかのモデルとしてチェアウォーカーズ(障がい児者)が居るのが当たり前だと思う」

第1回CFSは、ほとんど障がい児者支援に関しては素人、障がい者と話したこともないという人たちのベ100名くらいの応援で完成しました。障がい児者支援の一口は数人でした。従来の障がい者イベントならばたぶん専門家の人たちがすべての必要な配慮をプログラムして何も不具合がなくどんなアク

シデントにも即応できる体制を整えた上で実施するでしょう。それは正しいことなのです

が、デメリットとしては障がいの事を知らない人がそういうイベントを通じて様々な学び

くれたことに感激：モデルさんそれぞれが手に入れた「たからもの」です。そして「たからもの」はこのまちにも授けられたと思います。

それは、図らずもCFS終了後の次回のCFS開催についてのMMFの方々からの意見にすべて

を得ることが少なくなる、すなわち意識が変わりにくいということ、そして何より、少しの必要な専門的サポートさえあれば自分たちの目的に沿った活動・イベントに障がい児者も当たり前に参加できるということとを体得できにくいということなのです。

第1回CFSにおいてMMFの意識を変えてやろうとかいう意図は全くありませんでした。障がい児者の社会参加促進や偏見の是正を目論んだことはありません。しかし、現にMMFの若者たちの意識は変わり障がい児者との距離は縮まりました。またモデルとの話し合いの中で商店街に公共的多目的トイレがない、あれば利便性が高まるということも発見し署名活動等をしてなんと今年度、松山市がそれを実現するに至ったのです。

今年のCFSは、平成23年度愛媛県提案型パートナーシップ推進事業(事業名：障がい者社会参加促進事業@松山モードフェス)に選定されました。この事業にエントリーしたのは、県内各地にこのストーリー



メイクアップ2010

を紹介し県内どの地域でもまちづくり・ひとづくりの企画の中に障がい児者がちゃんと存在しているという、ごく自然な状態をどうすればできるかを皆さんに知ってもらいたいと思つたからです。年度末にはCFSとMMFのすてきなストーリーをお届けできると思いますのでよろしくお願ひします。